



《 例会 》 毎月第2水曜日 19:00~21:00 若松栄町教会 (☎ 0242-27-3944)

2016~2017 年度主題

International President :Joan Wilson (カナダ)  
 "Our Future Begins Today" 「私たちの未来は、今日より始まる」  
 Asia Area President :Tung Ming Hsian (台湾)  
 "Respect Y's Movement" 「ワイズ運動を尊重しよう」  
 東日本区理事 利根川恵子 (川越) 「明日に向かって、今日動こう」  
 北東部部長 長岡正彦 (もりおか) 「明日のために、いま土台を築こう」  
 会津クラブ会長 青山孝男 「明日を楽しく、共に歩もう！」

<No.259 会津通信>  
 2016年11月9日発行

会 長 青山孝男  
 副会長 高橋真美  
 書 記 高橋真人  
 会 計 高橋真人

◇11月の聖句◇

ひとりのみどりごが私たちのために生まれた。ひとりの男の子が私たちに与えられた。  
 イザヤ書9章5節

11月例会プログラム

司会；高橋 京子ウイメン

- |                                       |                |
|---------------------------------------|----------------|
| 1. 開 会 点 鐘                            | 青山孝男会長         |
| 2. ワイズソング                             | 一 同            |
| 3. 会長あいさつ                             | 青山孝男会長         |
| 4. 連 絡・報 告                            | 青山孝男会長         |
| 5. 聖 句 朗 読                            | 高橋 カヲ          |
| 6. 食前感謝                               | 高橋 カヲ          |
| 7. 会 食                                |                |
| 8. 懇 談                                | ワイズ理解          |
| 9. Happy Birthday! Happy Anniversary! |                |
| 11/10 高橋 カヲ                           | 11/21 高橋真美ウイメン |
| <b>あかべこ</b>                           |                |
| 10. 閉 会 点 鐘                           | 青山孝男会長         |

「今、思うこと」

高橋 京子



先月の27日に三笠宮さまがご逝去された。「歴史を回顧すると平和とは、戦争の休止期間とさえ言える。それでも我々は何としても、その平和の期間を一年でも長く保つように、努力を尽くさねばならない」とその著書で述べられた。

夢だった看護婦になれた姉は、従軍看護婦として過酷な病院船に乗った。家族の住む樺太は「日本人は全員殺された」とのデマもあり、音信不通叔父の一人娘だった従姉妹は、父を獣医として馬とともに戦場に送り、母も亡くなって4歳でたった一人苦労して育った。

兄は憧れだった機関士になってみれば、それは戦場を走る仕事で、23歳で亡くなった。

戦争に翻弄された人々が、まもなくいなくなる時を狙って日本の足元は今、くすぶっている。

70年余戦争をする事を許さなかった9条、どうしても守らなければならない。

(次回は青山孝男メンです)

<10月例会出席状況>

在 籍 者 5名 ゲスト1名  
 出 席 者 4名 ネット0名  
 \*10月例会出席率 80%  
 あ か べ こ 4,000 円  
 16-17 年度合計 13,000 円

☆ 強い義務感を持つよう 義務はすべての権利に伴う。 ☆

## 会津クラブ 10月例会

### <ゲストスピーチ・みに講話>

町田久次氏（プロフィールは10月号で報告）

**私論「戦争期とメディア」**～いったい、新聞で何が起きていたのか？～

退職後、新聞記者の経験を生かしてこれまで書いてきた作品の「崩壊する日々」は、新聞社を辞めるときに丁度「原発事故」が起きて新聞社の内部が非常に紛糾しました。今まで新聞は何となく原発に向き合って報道はしてきたのだが、あのような事故が起きますと、さてこれが私たちのやってきた仕事は正しかったのだろうか、原発にこれからどうやって向き合うべきなのかを、そのことを私自身の40年間の新聞記者生活の痛恨の思いを込めて書いたのが「崩壊する日々」です。



なぜ崩壊するのかと言うと自分が40年間で一生懸命新聞記者をやって、それなりに社会に尽くしてきたと思っていたのに、実は原発に対しては戦犯だったと、新聞自身が共犯者だったという思いが、私の心の中にずっと抜けなかったのです。会社の役員会にそのことを主張したが、誰も耳を傾けなかったのが寂しかった。その痛恨の思いが、自分の40年の記者生活って何だったのかということで、反省を込めて40年かけて積み上げてきたものが崩れたという意味から、崩壊する日々ということです。それが、たまたま県の文学賞小説部門準賞を受賞しました。もっと書いてみようということで、新聞社にいて新聞の歴史の中でいくつか気になったことが幾つかあったその中から題材を拾って書いたのが「吾等は善き日本人たらん-井筒 平・伝」です。この人は大正時代から昭和の前期にかけて「福島民友新聞」で活躍した元編集長です。この人が戦争とどういうふうに向きあったのかということ調べて書き上げた作品です。これは次の年で県文学賞ノンフィクション部門正賞を受賞し、私にとってははととても大切な作品です。

その後書いた「新聞疎開」は、戦争が丁度終わる頃の「福島民報」の話です。今度は何が一体あったのかということ調べました。新聞疎開ということ私には分らなかったのです・・・(次号に掲載します)

## 会津だより

### 「ユニークダンスつばさ」フェスティバルに参加

10月1日鶴ヶ城体育館で会津若松市国際交流協会主催の「国際交流フェスティバル」～世界は「ここ」にある～が開催されました。ユニークダンスつばさの参加は今回で3回目となりました。

6月に入会した4名のメンバーは練習から緊張気味でしたが、3曲を踊りステージを和ませてくれました。

ブースではユニークダンスの説明や映像も流しPR

に努めましたが、認知度と入場者の興味がないせい



か、他のブースより静かでした。

次回は他のブースを参考にしながら集客？ではないのですが、工夫を凝らしたいと反省しています。

(写真の甲冑姿は青山会長です)

## 会津の先人たちをシリーズで紹介します

### 第9代若松市長

板東俘虜(ばんどうふりよ) 收容所長

松江 豊寿(まつえ とよひさ)

### 「第九」初演の地

大正7年(1918)第一次世界大戦が終結しました。この戦争で日本は、ドイツ軍が占拠していた中国青島に出兵し、多数のドイツ兵を拘束しました。国内には、俘虜(捕虜)收容所が設置され、その一つに現在の徳島県鳴門市の「板東俘虜收容所」があります。終戦の年の6月1日、收容所のドイツ兵による「徳島オーケストラ」が、ベートーベン作曲の交響曲第九番を日本で初めて演奏しました。

### ドイツさん

收容所は、レストランやボーリング場など80軒もの店小屋が建ち並び、テニスや海水浴、演劇などの活動、そして広報紙の発行が行われ、開放的で活気にあふれていました。

ドイツ兵の持っていた菓子作りや農産物の栽培加工、建築設計などの技術は地域の人々に伝授され、住民は「ドイツさん」と呼び、心通う交流が行われました。(次号へ)

## ◆ 今後の予定 ◆

- ◇ 12月例会 12月14日午後7時～
- ◇ ユニークダンス  
会員交流会

